

歯科部門（歯科衛生士）教育プログラム

【教育方針】

広島大学病院診療支援部歯科部門（歯科衛生士）では、医療チームの一員として高い専門的歯科医療技術と知識を備え、幅広い見識と多職種と連携できる豊かな人間性を身に付けた歯科医療人の育成を目指しています。安全かつ安心な質の高い歯科医療を提供するため、求められる科学的根拠を探究し、それらに基づいた専門性を発揮するために、学術活動が実践できる歯科衛生士の育成も行います。

【新人教育プログラム】

3年間で基盤となる教育を受けることで、大学病院の歯科衛生士として実務的な基本能力を身に付け、ジェネラリストを目指します。その内容は、職場内教育や学内講習会、部門内勉強会（抄読会、症例検討会など）、自己キャリア開発を見据えた目標管理、自己学習、学会発表などを含めて包括的に教育行います。また、職能教育のみならず社会人基礎力を身に付けるための教育も行います。

具体的にはキャリアに応じた各ステージにおけるクリニカルラダーを用いて、到達・修得状況の確認・評価を行います。到達基準に達していない分野（項目）に関しては、繰り返し重点的に指導し、段階的なステップアップを目指します。

入職後1年間は、歯周診療科・歯科保存診療科・口腔インプラント診療科・咬合義歯診療科・顎口腔外科・口腔顎顔面再建外科・小児歯科・障害者歯科・矯正歯科・連携口腔ケアサポートチーム等の各診療科をローテーションし、幅広い歯科衛生士業務を経験します。スタンダードな疾患については一人で担当（診療）できることを到達目標とし、専門業務はプリセプティフ・プリセプター制度でマンツーマンの指導を行います。また、社会人としての基本はメンター・メンティー制度を活用し、年の近い先輩歯科衛生士からアドバイスを受けメンタルケアも含め、相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。

2年目以降は、難易度の高い患者の診療を先輩歯科衛生士のフォローの下、一人で担当（診療）できることを達成目標とし業務経験を積んでいきます。大学病院の歯科衛生士としてキャリア開発を念頭に、2年目の課題を解決するために、臨床実践の中で知識・技術の習得と研鑽を行います。

3年目には、これまで習得した知識・技術の成果を各種学会などで発表し、論文投稿にも挑戦します。歯科衛生士として習得した知識・技術と広い視野を持ち、考えて行動できる社会人・組織人として成長し、診療支援部常勤登用試験合格を目指します。

【3年間で教育内容と到達目標 及び常勤登用試験合格後 5年目までのキャリアパス】

